


No. 1

Def. Doc. 1843

文書ノ出所並ニ成立ニ関スル證明書

自分 佐藤朝生ハ内閣事務官ノ職ニ居ル者ナル處、
茲ニ添附セラレタル日本語ニ依リテ書カレ五頁ヨリ成ル臨
時資金調整法一昭和十二年九月十日法律第八六号
昭和十二年九月十五日及昭和十一年九月二十七日施行一ト題
スル書類ハ昭和十二年九月十日日本政府ノ発行ニ
係ル官報ノ抜萃ノ正確ナル寫レナルコトヲ證明ス
昭和二十二年六月二十七日 於東京

佐藤朝生 

右署名捺印ハ自分ノ面前ニ於テ為サレタリ
同日於同所

立會人 岩倉規夫 

Def. Doc. 1843

臨時資金調整法

昭和十二年九月十日法律第八十六號
第十一條ハ昭和十二年九月十五日ヨリ
其他ハ昭和十二年九月二十七日ヨリ施行

第一條 本法ハ支那事變ニ因テ物資及ビ資金ノ需給ノ適合ニ資スルヲ以テ國內資金ノ使用ヲ調整スルヲ目的トス

第二條 銀行、信託會社、保險會社、産業組合、中央倉庫、商工組合、中央倉庫及北海道府縣ヲ區域トスル信用組合、聯合會(以下金融機關ト總稱ス)ハ事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張若クハ改良ニ關スル資金ノ貸付ヲ爲シ又ハ有價證券ノ應募、引受若ハ募集ノ取扱ヲ爲サントスルトキハ命令ノ定ル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受ズシ金融機關ニ非ズシテ有價證券ノ引受又ハ募集ノ取扱ヲ業トスル者(以下之ヲ證券引受業者ト總稱ス)有價證券ノ應募、引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲サントスルトキ亦同シ

第三條 金融機關又ハ證券引受業者前條ノ貸付又ハ有價證券ノ應募、引受若ハ募集ノ取扱ニ關シ本法ノ目的ニ從ヒ政府ノ適當ト認ル方法ニ依リ自治的ニ調整ヲ爲スモノナルトキハ之ニ對シ命令ノ定ル所ニ依リ前條ノ規定ヲ適用セザルニトシ得

第四條 命令ノ定ル會社ノ設立ハ政府ノ認可ヲ受ケルニ非ザレバ其ノ効力ヲ生ズ 會社ノ資本増加、合併又ハ目的變更ニシテ命令ノ定ルモノニ付亦同シ

No. 2

●命令、定ル會社左、各號ノ一ニ該定スル場合ニオイテハ政府ノ許可ヲ受テ

一 第二回以後ノ株金ノ拂込ヲナサシムルトキ

ニ 株金ノ拂込、社債ノ發行集メ又ハ金融機關ヨリノ借入

シテ命令、定ル限度ヲ超スル事業設備ノ新設擴張又ハ改良ヲナサシムルトキ

三 他人ヲシテ引受又ハ募集ノ取扱ヲナサシムシテ社債ヲ募集セントスルトキ

第五條 政府ハ命令ノ定ル所ヨリ第二條又ハ前條ノ許可

又ハ認可ニ關スル事務ヲ日本銀行ヲシテ取扱ハシム

●前項ノ事務ノ取扱ニ要スル經費ハ日本銀行ノ負擔トス

●第一項ノ場合ニ於テ當該事務ニ從事スル日本銀行職員ハ之ヲ法令ニヨリ公務ニ從事スル職員ト看做ス

第六條 日本興業銀行ハ五億円ヲ限リ日本興業銀行

行法第十二條ノ規定ニヨリ制限ヲ超テ債券ヲ發行スルコトヲ得

●日本興業銀行ハ其債券借換ノ爲債券ヲ發行スル場合ニ於テハ前項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

●日本興業銀行法第十六條ノ規定ハ之ヲ通用セム

●政府ハ第一項ノ規定ニ依リ發行スル債券ニ付命令ノ定ル所ニ依リ額面金五億円ヲ限リ其元本ノ償還及ビ利息ノ支拂ヲ保證スルコトヲ得

第七條 金貨金ハ金貨金特別會計法第四條ノ規定ニ依リ外之ヲ興業債券ニ運用スルコトヲ得

第八條 命令ノ定ル時局ニ緊要ナル事業ヲ営ム會社ハ事業擴張ノ場合ニ於テ命令ノ定ル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受ケルノ事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ルルヲ株金金額拂込前ト雖モソノ資本ヲ増加スルコトヲ得

第九條 命令ノ定ル時局ニ緊要ナル事業ヲ営ム會社ハ命令ノ定ル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受ケルノ事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ルルニ爲シ商法第二百條ノ規定ニ依ル制限ヲ超エテ社債ヲ募集スルコトヲ得 但シ社債ノ總額ハ拂込ミタル株金額ノ二倍ヲ超ニルコトヲ得ズ

● 最終ノ貸借対照表ニ依リ會社ノ現存スル財産カ拂込ミタル株金額ニ滿タザルトキハ前項ノ規定ヲ通用セズ

● 第一項ノ規定ニ依リ募集スル社債ニ付テハ擔保附社債信託法ニ依ル物上擔保ヲ附スルコトヲ要ス

第十條 政府ハ第八條ノ規定ニ依リ資本ヲ増加シタル會社又ハ前條ノ規定ニ依リ社債ヲ募集シタル會社ニ對シソノ業務及ビ會計ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ処分ヲ爲スコトヲ得

第十一條 資金使用ノ調整ニ關シ重要ナル事項ヲ調査審議スル爲メ臨時資金調整委員會ヲ置ク

● 臨時資金調整委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第十二條 第二條 第四條 第八條又ハ第九條第一項ノ規定ニ依ル許可又ハ認可ニ關スル處分ニシテ事業ノ重要ナルモノニ付テハ臨時資金審査委員會ノ議ヲ經ハシ

● 臨時資金審査委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 政府ハ日本勸業銀行ヲシテ收入金ニ億円ニ達スル迄貯蓄債券ヲ発行セシムコトヲ得

●貯蓄債券ハ無記名トシ券面金額ヲ二十円以下トス

第十四條 貯蓄債券ハ発行ノ翌年ヨリ三十五年以内ニ五年

二回以上 抽籤ヲ以テ之ヲ償還スベシ

●貯蓄債券ヲ償還スル場合ニ賣出價格ノ百五十倍以内

ノ割増金ヲ付スルコトヲ得 其ノ方法及ビ金額ハ主務

大臣之ヲ定ム

●前項ノ割増金ハ主務大臣ノ定ムル價格ニ依リ國債證

券ヲ以テ交付スルコトヲ得

第十五條 復興貯蓄債券法第三條 第五條 第六條

第七條第一項及ビ第八條並ニ日本勸業銀行法第三

十五條ノ二 第三十五條ノ三 第四十條及ビ第四十一條ノ規定

ハ貯蓄債券ニ之ヲ準用ス

第十六條 政府ハ資金ノ狀況ヲ調査スルタメ必要アリト認め

ルトキハ命令ノ定ムル所ニヨリ左ノ各號ニ場ケル事項ニ關シ

關係者ヨリ報告ヲ徴シ又ハ帳簿ソノ他ノ検査ヲナスコトヲ得

一 資金ノ需給及ビ移動ニ關スル事項

二 有價證券ニ關スル事項

三 國際收支ニ關スル事項

四 事業ノ資金計畫ニ關スル事項

第十七條 左ノ各號ノ一ニ該多スル者ハ五ヶ月以下ノ罰金ニ處ス

一 第二條ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ資金ノ貸付ヲ

ナシ又ハ有價證券ノ應募引受若クハ募集ノ取扱ヲナシ

者

二 第四條第三項ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ株金掛
上ノ借告、設備、新設、擴張若クハ改良又ハ社債ノ募
集ヲ行ハスル者

第十八條 左ノ各號ノ一ニ該当スル者ハ五百日以下ノ罰金ニ處ス

一 第十條ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者

二 第十六條ノ規定ニ違反シ報告ヲ爲カズ、虚偽ノ報告ヲ
爲シ又ハ検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者

三 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ政府ニ提出スベキ
許可又ハ認可ノ申請書其ノ他ノ書類ニ虚偽ノ記載ヲ
爲シタル者

第十九條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ

他ノ従業者カ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ関シテ前ニ條ノ
違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人

又ハ人ニ對シ亦前ニ條ノ罰金刑ヲ科ス

第二十條 当該官吏、委員若クハ第五條第三項ニ規定スル

日本銀行職員又ハソノ職ニ在リタル者本法ニ依ル職務
執行ニ関シ知得タル法人又ハ人ノ業務上ノ秘密ヲ漏洩
シ又ハ其ノ用シタルトキハ四月以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 本法ヲ朝鮮、吉靈灣又ハ樺太ニ施行スル場合ニ

於テ必要アルトキハ勅令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ハ第十四條及第十五條ヲ除キ支那事變終了後
一年以内ニ之ヲ廢止スルモノトス